

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 12月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



♪ヤーレン ソーラン ソーラン
ソーラン ソーラン ソーラン
ニシン来たかと カモメに問えば
わたしゃ立つ鳥 エー波に聞け チョイ
ヤサエー インヤーサーアノ ドッコイシヨ ドッコイシヨ

これ、私の大好きな歌です。初めて聞いたのは多分幼稚園に行く前だから、4～5歳だったのだと思います。もうひとつ古い記憶の歌は、ペギー葉山が歌っていた ♪土佐の～高知の～播磨屋橋で、坊さんかんざしを買うをみた～です。はりまや橋に夢を感じていたのですが、この仕事をするようになり高知を訪れ、実際に見た播磨屋橋にはガッカリしました。でも、播磨屋はあったように思います。解脱したはずの坊さんが、色に目覚めてかんざしを買うなんて、とても情緒があり、子供心にも響いていました。それに、空飛ぶカモメに鯨が来たかと問う気持ちも分かるような気がしていました。高く飛ばば、岸からは見えぬ波浪の向こうも見える

だろうと、鯨に来てほしい気持ちがそこに謳われているような気になったのだらうと思います。畑の肥やしにしたほど大量の鯨が北海道に来ていたんだと思います。私は今でもその名残の『にしん蕎麦』を、無性に食べたくなる時があります。また年越しそば私の定番はにしん蕎麦です。

あれだけ来た鯨が、この歌が流行り始めたこの頃に、突然北海道に来なくなったらしい。別な海で今も沢山泳いでいるのか、それこそ乱獲が祟って何処にもいなくなってしまったのか、それは分からない。でも、生態系のちょっとした変化で生物の環境バランスが変わるのだらうけど、それぞれ対応してしっかり生きて来た。

最近、ちょっとした海流の温度差で、今まで上がっていた魚がその時期に上がらなくなったら、知ったような顔で『温暖化で・・・』と言う。私が週末を過ごす小豆島の海辺で、『砂浜が子供の頃より狭くなったのは、温暖化で海水が上がって来た』という。そんな馬鹿なことは無い、沖で砂利船が砂を採れば、それや浜の砂も沖に流れるだらうと思う。

されでは『本当だらうか』と思う気持ちは無いのかと言うと、そうでもなく、私がかワハギを6枚ほど僅か3回投げただけで釣れたと言うと『嘘をつけ!!』と言う。身近な人間の言う事は嘘だと思うのに、遠く誰が言い出したかも分からないTVの戯言を、簡単に人は信じ込んでしまうものらしい。もっとも、その嘘をつけと言った畑を手伝いに来てくれていた人物は、『貝を獲りに来ていた俊のサザエと交換した』と言うと、俊に電話をしたというから驚いた。

こういう話なら、長閑な風景として趣もあるが、米国の大統領が先日地球温暖化の為に、ガソリン車から電気自動車に移行する策に1100兆円の国家予算を組んだとNHKスペシャルなる番組で、映像まで

流して言っていた。気でも狂ったのかと思ってしまう。ガソリン車はCO2を排出するが、電気自動車はクリーンだそう。私自身は根本的に原子力発電に反対している訳ではない。ひとは科学する動物だと思っている。それが特性なら仕方が無い。科学しなければ弱肉強食の野生の中で、此処まで種を発展させることは出来なかったと想像するから、その科学を否定する気にはなれない。その科学の使い道を誤っているだけだと考えている。亦その誤りそのものも人間の特性だとしても良いけれど、それなら誤りを正すのも人間の特性だとしなければバランスが良くない。

昨日は疲れて金沢から京都まで戻り、JR 京都線新快速が 15 分遅れという事で、ホームにはひとが溢れていた。ところが、『続いて次の新快速がホームに入る』というアナウンスが流れて、並んでいた半分の人は乗ろうとせず、おかげで最後尾に並んでいたにも関わらず、しかも運のいい事に座れた。私が座席の横に立つと空いている席にリュックサックを置いていたお兄さんが、膝の上にリュックを退けてくれた。助かったと思う一分もしない内に、そのお兄さんはそう長くもない足で、私の膝を跨いで席を立ち通路の奥に移動した。どうしたんだろうと思うと同時に、自分がマスクをしていない事を思い出した。そう言えば、出張中『またしても南アフリカで変異株』とか言っていた。南アフリカだよ、しかもただの風邪が……、こんな事で一体政府は国家予算をいくら使ったのだろう。その予算は何処に消えたのだろう。

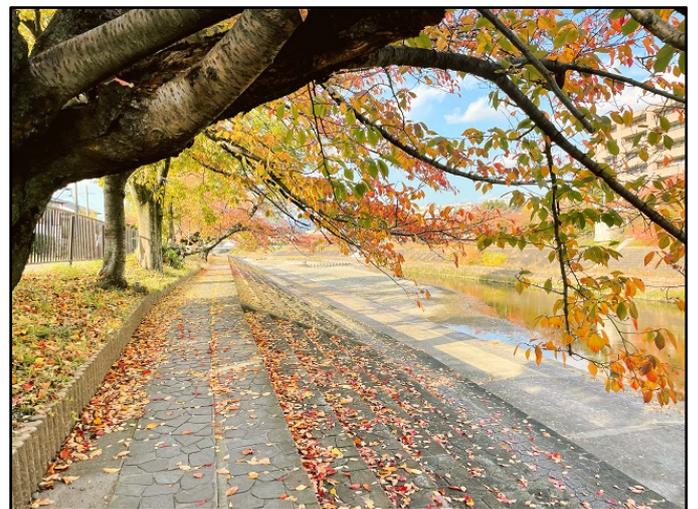
米国の電気自動車支援策予算に 1100 兆円と言う額が、今年 4 月に立てた covid-19 対策予算は 190 兆円だから、如何に多額だか分かると思う。その根拠が地球温暖化人為説だから、笑ってしまう。ドル紙幣を刷る人の近くにいる人が、北朝鮮に埋まっているウラン 2600 万トンの開発契約を取り付けたと数年前に記事で読んだことがある。この人物は元米国大統領で、石油王の子供との噂もされているひとだが、その友人と二人の共同経営の会社だと書いていた。

低温核融合という技術を私は知らないが、これが開発されれば、蓄電池の発達と共に私たちもその恩

恵に与えられるような気がする。エネルギーを独り占めしたい人たちから見れば、石油より独り占めしやすい素材なのかもしれない。まあ、Gold の独り占めをする人もあれば、エネルギーを独り占めする人もあり、そのコストを国家予算という、いずれ消えてなくなる国家債務・税金で賄ってくれても、気に入らないが、どうでもいい。

だけど Covid-19 のようなことは困る。二十歳過ぎの若者の心に根拠もない恐怖を植え付けてくれている。お金で人の心は支配できないから、5 億円でも 5 兆円でもいい、でも恐怖を植え付け、人の心を支配する事は困る。もっと垢抜けた方法を良い頭を使って考えてほしいものだ。もし、国家経済をスクラップして、世界共通の指針を打ち出したいなら、家庭に税金をバラ撒いている方が可愛くていい。

今は深夜の零時 30 分だが、書き始めにベランダで一服すると、川の堤にヘッドライトを付けてランニングしていたひとが、小一時間経ってまたベランダに出ると、未だペタペタという足音で走っている。彼は何を考えてこの時刻にひとり走っているのだろうか。ふと空に目をやるとオリオンの三ツ星が光り、その下にシリウスかな、燦然と輝いていた。冬至の風物詩、オリオンの三ツ星の延長線上から太陽が昇る。これは冬至だけの話では無く、既にその方向から太陽は昇って来る。そういう意味では、冬至は既に始まっていると言っても良いような気がして来た。



有限会社アルファー
吉田清一郎